

B y o u b u

# 屏風

Kyouichi Kataoka

## 片岡 恭一

片岡屏風店 2代目店主

- 1996年 すみだマイスター認定
- 2006年 東京マイスター認定

### ◆受賞歴など

- 1995年 節句人形コンクールで最優秀技能賞受賞
- 2009年 伝統工芸品産業功労者 東京都知事感謝状授与



着物（留袖）屏風仕立て



帯屏風仕立て

びょうぶ

## 屏風とは？

屏風の歴史は古く、7世紀後半の天武天皇の頃に、朝鮮半島の新羅からの贈答の品として送られたのが始まりとされています。尚、現存する最古の物は、奈良時代の聖武天皇の遺愛品で、正倉院宝物として知られている「鳥毛立女屏風（とりげりつじょのびょうぶ）」にまで遡ります。

以後、平安・鎌倉時代を通じて貴族などの生活空間において、風や視線をさえぎったり、室内装飾などの調度品として用いられ、とても身近なものとして人々に親しまれてきました。尚、屏風に絵が描かれるようになったのは実は平安時代頃からとされており、鑑賞絵画としての需要が高まった桃山・江戸時代には、墨の濃淡を用いた山水画、華やかな色彩の花鳥画や風俗画などが描かれるようになりました。

## 技へのこだわり

日本人にとって馴染みの深い屏風。

出来るまでには「木枠作り」「蝶番」「下貼り①(骨絞り)」「下貼り②(みの貼り)」「下貼り③(みのおさえ)」「下貼り④(袋貼り、清貼り)」「蝶番(組み合わせ)」「本紙貼り」「裏紙」「へり」「仕上げ」と様々な工程があります。

みなさんは屏風の中を見たことはありますか？

装飾品として私たちの目を楽しませてくれる屏風ですが、長年にわたり美しさを保つには、中の仕事にこそ差が出ると同氏は言います。

今や東京唯一の屏風店である同社では、「見えない所こそ丁寧な仕事」をモットーに、“強度を意識した下貼り作業”“利便性のある蝶番(ちょうつがい)づくり”など昔と変わらない伝統的な工程を大切に、高い技術と豊富な経験を活かしながら製作を行っています。